

## 1 麦類の生育状況と今後の管理について

本年産のビール大麦の生育は、茎立期は平年に比べ早まりましたが、3月に入ってから気温の低下に伴って生育は緩慢となり、出穂期は4月7日頃と平年と比べて2日遅くなりました。今後の気温は高い予報のため登熟は平年に比べて早まると予想されます。麦の生育を良く確認し、赤かび病の防除、収穫作業を適正に行い、高品質麦の生産に努めましょう。また、大雨に備えて明渠の点検・補修を行いましょ。

### (1)二条大麦（ビール）

発芽勢の確保のため、適正な収穫作業を行いましょ。

#### ◎早刈り厳禁

収穫適期：8割の穂首が90度以上曲がった頃（穀粒水分25%以下）

生育ムラがある場合：収穫日を通常の生育よりも1～3日遅らせるか、刈り分けを行いましょ。

#### ◎適正な収穫作業

コンバインの掃除を徹底的に行いましょ。回転数は稲よりも1割遅くし、裂皮や剥皮が発生しないか確認しながら作業しましょ。

### (2)小麦

圃場を観察し、防除適期を逃さないようにしましょ。

#### ◎赤かび病の追加防除（2回目）

1回目散布（開花始め）の20日後に2回目の薬剤散布を行いましょ。

同系統薬剤の連用は避け、収穫前日数に注意して薬剤を選びましょ。

### (3)食用大麦（もち絹香）

ビール大麦（ニューサチホゴールド）と比べて穂発芽しやすいので、刈り遅れないようにしましょ。

#### ◎適期収穫

収穫適期：8割の穂首が60度以上曲がった頃（穀粒水分30～25%）

※ニューサチホゴールドに比べて2日程度収穫が早くなります。

## 2 水稻育苗のポイント

### (1)種子消毒

- ・未消毒種子を購入した場合、種子伝染性病害の防除のため、種子消毒を必ず行いましょ。
- ・消毒中、種籾袋を2～3回上下に攪拌し、種子を完全に浸漬します。
- ・消毒液の使用は1回限りです。繰り返し使用しないようにしましょ。

#### ○種子伝染性病害虫に適用のある主な種子消毒剤（令和6年4月11日時点の登録）

農薬名	希釈倍率	水20L当たり使用量(24時間浸漬する場合)
テクリードCフロアブル	200倍	100ml
スミチオン乳剤	1,000倍	20ml

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

### (2)適切な浸種・催芽

- ・浸種は、積算温度100～120℃（消毒種子は120～130℃）程度で行ってください。
- ・低温備蓄種子はしっかり吸水させるため、浸種時間を1～2日長くとりましょ。
- ・催芽は、28～30℃で18～20時間、ハト胸程度に均一になるようにする。

#### 浸種時間の目安

種子	水温13℃の場合の浸漬日数(積算温度)
未消毒種子	8～9日(100～120℃)
消毒種子	9～10日(120～130℃)
低温備蓄種子	9～12日(120～150℃)

(裏面あり)

(3)適正播種量

播種は薄播き（箱当たり催芽粉130g）でがっちりとした苗を作ります。

(4)播種後の管理

徒長やムレ苗発生防止のため温度管理や、過剰なかん水に注意しましょう。

		展開後1~4日(緑化期)	5~15日	15日~
温度管理	日 中	18~25℃(30℃以上にしない)		
	夜 間	10℃(最低5℃以上)		5℃~7℃以上
かん水	かん水量	2日に1回 極度に乾燥した時以外は控える	1~2日に1回 控え目のかん水に努める	1日1回 午前中十分に
	注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>かん水量が多すぎると苗が徒長し、根の生育不良を招く。</li> <li>低温時のかん水は午前中に行い、夕方のかん水は行わない。</li> <li>夕方、苗箱の表面が乾く程度が最適です。</li> </ul>		晴れの日はたっぷり、曇りの日は控えめに。

### 3 水稻育苗箱施用剤について

箱施用剤で病害虫防除を行い、良質米の生産を心がけましょう。

○主な箱施用剤

(令和6年4月11日時点の登録)

農薬名	使用量	使用時期	使用回数	適用病害虫
ルーチンアドスピノ 箱粒剤	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50g	播種時(覆土前) ~移植当日	1回	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、イネツトムシ、イネドロオイムシ、イネヒメハモグリバエ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、コブノメイガ、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ
ブーンパディート 箱粒剤	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50g	播種時(覆土前) ~移植当日	1回	いもち病、白葉枯病、内穎褐変病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、もみ枯細菌病、イネツトムシ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ
トリプルキック 箱粒剤	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当たり50g	移植3日前 ~移植当日	1回	稲こうじ病、いもち病、白葉枯病、墨黒穂病、内穎褐変病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、もみ枯細菌病、紋枯病、イネツトムシ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

※シメコナゾールを含む農薬の総使用回数は2回以内（移植時までは1回以内）であることに注意。

※トリプルキック箱粒剤はウンカ類に登録が無いので、コシヒカリ等のイネ縞葉枯病に罹病する品種を作付けする場合は、別途イネ縞葉枯病対策を検討する。